

『安平町史』執筆要領

一 執筆にあたっての基本的事項

- (1) 本文は、縦書き（縦組）とする。
- (2) 記述範囲は、旧町史の要約（前史）、旧町史発刊以降から合併まで（平成十七年）、合併以降（平成十八年から令和八年）までを原則とする（資料 2-2 参照）。ただし、令和八年以降、発刊までの期間に特筆すべき事項が出てきた場合は、記述すべく努める。
- (3) 記述にあたっては、平明かつ正確であることを心がけるとともに、写真や図版をできるだけ多く収録し、広く町民に親しまれ、理解しやすいものとする。
- (4) 記述にあたっては、これまでの町内外の諸研究を参考にするとともに、各学問分野における最新の成果を盛り込むべく努めるものとする。
- (5) 記述にあたっては、安平町とその周辺の事項に留まらず、北海道をはじめ、国全体、及び国際社会などの社会的背景を巨視的な視点から記述することで、安平町の歴史を大きな時代の流れの中で理解できるものとなるよう努める。

二 編、章、節等の区分の仕方

- (1) 編扉を立てる（編扉は必ず左ページ＝奇数ページとなる）。
※旧町史（同）
- (2) 本文に用いる見出しは上位から「章見出し」「節見出し」「大見出し」「小見出し」の編成とする。
※追分町史・早来町史（同）
※続早来町史は編扉の次ページから本文を記載しており、「章見出し」「節見出し」「小見出し」の編成
「小見出し」の編成
- (3) 章は、章が変わるごとに「ページ」を改める。
※追分町史・続早来町史（同）
※早来町史（同）ただし、章の変わり目に改ページをせずに追い込みとしているページもある。
ページの上に「編柱」「章柱」を表記する。
※追分町史・早来町史（同）
※続早来町史は「編柱」としている。
- (4) 編、章、節の順序を表す数字は漢数字とするが、ページの上の「編柱」「章柱」に用いる数字は算用数字（アラビア数字）とする。
※旧町史（同）
- (5) 節の変わり目は改ページせずに、追い込みとする。
また、節の順序を表す数字は漢数字とする。
※旧町史（同）
- (5) 節の中をさらに細かく項に区分するときは、「大見出し」を立てる。

大見出しは、「1」「2」のように算用数字を冠する。

- (6) 本文中の適当な箇所にごシック体で「小見出し」をつける。「小見出し」は、1ページに1〜2個程度を目安とし、一つの小見出しの内の本文行数が2〜3行とならないようにする。

※旧町史(同)

三 文章の表現

- (1) 文体は、「である」調を基調とする平易な口語体とし、必要以上の敬語は使用しない。
(例) である。となった。であろう。であった。している。された。こととした。していた。

※旧町史(同)

- (2) 記述は、原則として常用漢字及び現代仮名遣いを用いる。ただし、人名・地名などの固有名詞、引用文、学術用語(歴史的用語、専門用語)については必ずしもこの原則によらず、難読と思われる用語には適宜ルビ(ふりがな)を付す。なお、ルビは、節単位の初出の漢字の右側に付す。

※追分町史・早来町史(同)

※続早来町史はルビなし

- (3) 接続詞、副詞、助動詞の類のうち、次のような語句は仮名書きとする。

(例) しかし(然)	おそらく(恐)	たとい(仮令)	たぶん(多分)
もつとも(尤)	あたかも(恰)	あるいは(或)	いえども(雖)
もし(若)	いずれ(何)	いったん(一旦)	いわゆる(所謂)
おいて(於)	かつ(且)	：のため(為)	この(此)
その(其)	ばかり(計)	しばしば(屢々)	ただし(但)
たち(達)	たちまち(忽)	およそ(凡)	ちょうど(丁度)
ちよつと(一寸)	できる(出来)	なお(尚)	など(等)
ほぼ(略)	また(又)	ますます(益々)	いよいよ(愈々)
まず(先)	まで(迄)	もちろん(勿論)	やや(稍)
ら(等)	わたって(亘)	かつて(嘗、曾)	さらに(更)

(4) かな文字の反復は、文字で書き、「**ト**」「**ズ**」「**ク**」「**ド**」などの符号は使用しない。
(例) それぞれ いろいろ さまざま

- (5) 漢字の反復は、「々」の符号を用いる。

(例) 人々 国々

- (6) 促音(っ)・拗音(ゃ、ゆ、よ)は、右に寄せて小さく書く。

(例) ちよつと もつとも さっそく しょつちゅう
ひよんな ちようど

- (7) 句読点は、文節ごとに入れ、一篇文章は、複数の文節で構成し、一篇文章が短文にならないようにする。

- (8) 名詞を並列する場合は、中点(・)を用いる。

(例) 御三家(尾張家・紀州家・水戸家) 東京・大阪・京都の三都市

※追分町史・早来町史(同)

※続早来町史は「」

(9) 書籍名、雑誌名は『』でくくり、論文名は「」でくくる。

(例) 小島敏夫『近代農業概説』

坂井晴雄「教職と行政」『月刊思想界』三巻八号

※続早来町史(同)

※追分町史・早来町史は「」でくくつておらず。

(10) その他、用字用語については、原則として弊社発行の『例解辞典』の定めに従う。

四 地名・人名など固有名詞について

(1) 地名、人名で読みにくいものは、節ごとに初出の漢字にルビ(ふり仮名)を付ける。団体名、法律名などは、初出のときに正式名称を記し、以後は略記することができる。

(例) 北海道旅客鉄道株式会社(以下、JR北海道)

(2) 人名の敬称は、歴史書の慣用に倣い使用しない。

五 年の表記について

(1) 年の表記は原則として和暦を用い、適宜、和暦の後の()内に西暦を付す。この場合、「年」は最後に記す。

(例) 平成四(一九九二)年五月

※追分町史・早来町史(同)

※続早来町史は和暦のみの表記

(2) ()内に西暦年を付すのは、小見出しを単位とした本文内で初出の場合とする。ただし、年号が変わった場合は、()内に西暦を付すこととする。

また、「昭和●年代」など、年数が定まらない場合は、西暦を付さないこととする。

※追分町史は全てに西暦を付している。

※早来町史は西暦を付している箇所と付していない箇所がある。

※続早来町史は和暦のみの表記

六 数の表記について

(1) 本文における数の表記は、原則として漢数字を用いる。ただし、横組の図表内の数字は算用数字を用いる。

(2) 年号を付した和暦による年月日、世紀、年齢、条名(法律・条例等)、概数の数字は「十」「百」の単位語を用いる(とんぼ十字方式)。

(年月日の例) 昭和五十四年十一月三十一日

(世紀の例) 二十一世紀

(年齢の例) 二十三歳 百歳

(条名) 日本国憲法第九十二条

(概数の例) 数百円 三十余年 十数人 およそ二百年にわたり

※追分町史・早来町史(同)

※続早来町史は年号に「十」「百」の単位語を使用していない。

- (3) 前項の和暦年月日、世紀、年齢、条名、概数以外の数字は、「二〇方式」を用いる。この場合、「兆」「億」「万」の単位語を用い、千以下の「千」「百」「十」の単位語は使用しない。

(例) 一二三個 四億五〇六七万八九〇〇円 (西暦) 二〇一四年

(和暦との組み合わせ例) 平成十年までの一〇年間

※早来町史(同)

※追分町史・続早来町史はページにより「十」「〇」表記がバラバラとなっている。また、「三桁区切りのテン(〇)」を入れない。なお、近年、縦書きで「三桁区切りのテン(〇)」を用いる自治体は少ない。

※続早来町史(同)

※追分町史・早来町史は「三桁区切りのテン(〇)」を用いている。

- (4) 漠然とした数の表記には、句点(・)を入れる。

(例) 二、三人 四、五人

- (5) 数の幅を表記するときは、「五〇一〇年」「一万二五〇〇〇一万二六〇〇人」とし、西暦は「一八九九〇一九〇一年」「一九九〇〇一九五五年」のように書く。

- (6) 分数は、「三分の一」「二五分の一」のように表記する。

- (7) 小数点以下の数は、「二五・六〇」のように、中点(・)を用いて表記する。

七 単位の表記について

- (1) 単位は、ページ当たりの文字収容量を増やすため、組文字のカタカナを用いる。

(例) 坪^{タテ} 平方^キ 立方^{クブ} 釐^{センチ} ミリ^{ミリ} ヶ^ダ ヲ^ト

- (2) 前項(1)の例外として、単位のうち「パーセント」のみは単位記号「%」を用いる(これは、「パーセント」は本文において統計数値を分析する際に頻出するため、「釐」と表記するより、一目で見切ることのできる「%」を用いるほうが読みやすいという理由による)。

※追分町史(同)ただし、「釐」もカタカナ表記

※早来町史はメートル・パーセント等組文字を使用していない。

※続早来町史は ha km m % 等、アルファベット表記

八 表組の書き方

- (1) 数字を主体とする表組は原則として横組を用いる。ただし、表の内容により、縦組を用いることもある。

- (2) 横組の表組で、見開き(2ページ)で収まる場合は、左ページ(奇数ページ)から右ページ(偶数ページ)へと流れる順序(逆順)で掲載する。また、表組の始まりが左ページの場合で、2ページ以上にまたがる表組の場合(見開きにならない場合は、通常の順序で掲載する。3ページ以上に及ぶ表組の場合も同様とする)。

- (3) 表組の見出し(表組の説明文)は、横組の場合は表組の上に付け、縦組の場合は表組の右に付ける。
- (4) 表組の見出しの頭には図表番号を冠する。図表番号は、「編番号」「章番号」「章の中の通し番号」の3つの数字をダッシュ「-」でつないで表記する。
(例) 図表2・3・6(これは、第2編の第3章の中の6番目の表であることを示す。)
- (5) 横組の表組における数字は半角算用数字を用い、3桁ごとに「,」を入れる。
(例) 765,432,108
※追分町史・早来町史は縦書きの表を主に用いている。
※続早来町史は横組みを多用している。

九 その他

- (1) 編さん委員が実際の原稿を読み、表記上に違和感を覚えるなどの箇所があれば、その都度指摘し、必要に応じて、編さん委員会で審議・決定するものとする。